

10年後の自分と、京都のまちの、
ミライとモンダイを考える。
京都市基本計画審議会

U35のメンバーが市民にわかりやすくレポートします！

傍聴記

vol.2

共汗部会 第1回うるおい部会

(「環境」「文化・スポーツ」「市民生活」分野)

主な議事: 共汗部会の役割や次期京都市基本計画の構成等について意見交換

開催日: 平成21年10月27日(火)

会場: キャンパスプラザ京都



レポーター 藤田 卓也さん

1987年広島生まれ。京都大学工学部工業化学科 4年生。2005年に第5回京都学生祭典の実行委員長を務めたのち、現在は学生の課外活動支援のため、日本初の大学と学生の共同プロジェクトである京都大学学生コンサルティング室に所属

会議のポイント

POINT 1.

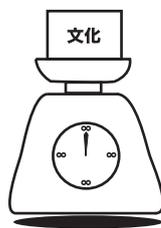
新しい意味での市民参加の必要性



10年前であれば市政に声を届けたり市政に参加したりとただで「市民参加」と言われていましたが、これからは更に市政における市民感覚や、市民に開かれた話し合いが必要となるというお話に共感しました。

POINT 2.

文化を扱う難しさ



環境問題や経済は数値で表せますが、文化は数値で評価できない、だからこそ高い文化度を指すのであれば目標は達成して当然、よりいっそうの高みを指すことが高い文化度を表すのではないかというお話があり、今後につながる大切な投げかけだと思います。

この会議を傍聴して、 藤田さんが思ったこと。

率直に申し上げて、「これから一体どうやってまとめていくのだろう?」という印象が非常に強かったです。もちろん、初回の会議であったことも大きな要因だとは思いますが、さまざまなバックグラウンドをお持ちの方々が集まっているので、それぞれ「ここに力を入れたい!」というポイントは異なるはず。また、提案すべき分野も環境から市民生活に至るまで広範なものです。出てきた案をおせち料理のようにあれもこれもと詰めていくのなら結論を出すのは簡単ですが、そうもいかないでしょうからどう折り合いをつけ、本当に目指す10年先のビジョンを示していただきたいと思います。

審議회를傍聴して、 藤田さんから提案すること

● 必要なデータの提示

私が理系であるからでしょうか、議論するにあたり少しデータ不足を感じました。例えば今回であれば前回の基本計画の目標達成率などが提示されましたが、データ・数値・市民の声といったものをもっと出していったほうが共通の問題認識ができやすく、話し合いもスムーズにいくのではないのでしょうか。

● 若年層の会議参加

大学生でも高校生でも、やはり「今後の10年」の主役は今の若者です。そういった次代を担う若者に会議に参加(傍聴という形でも)してもらい、すこしでも今後に対する意識を高めてもらうとともに、その中で感じた「え、若者はそんなこと求めてないのに」「もっとこうしてほしい」といった若者感覚を吸い上げ、ぜひ実際に会議で活かしていただければと思います。

U35については、こちらをご覧ください。⇒ <http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000071812.html>

今年は10年に一度の、京都市の10年後を考える年です。
市政をよく知り、よく考え、利用し、参加し、仲良くなろう

発行:京都市 編集:未来の担い手・若者会議U35

